

秋田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	校外実習基礎A
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	創造システム工学科 (電気・電子・情報系)		対象学年	3	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	実習先の企業で準備されたもの				
担当教員	佐藤 貴紀				
到達目標					
1. 実習先で行われた研修、および指示された作業等を実施できる。 2. 実習報告書がわかりやすく作成できる。 3. 報告会において、実習内容を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	実習先担当者の指示通り実施できる。		実習先担当者の指示通りある程度実施できる。		実習先担当者の指示通り実施できない。
評価項目2	実習報告書がわかりやすく作成できる。		実習報告書がある程度わかりやすく作成できる。		実習報告書がわかりやすく作成できない。
評価項目3	実習内容を明確に説明できる。		実習内容をある程度明確に説明できる。		実習内容を明確に説明できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目は、インターンシップ先企業と共同で、生産現場における産業の技術を総合的に体験する。				
授業の進め方・方法	実習先の企業の指導担当員の指示による。				
注意点	合格点は50点である。 評価は実習先担当者、学級担任および長が次の各項目を担当して行う。 1.実習先担当者による評価 実習先において、以下の評価項目について総合して、S(非常に満足:100点), A(満足:90点), B(やや満足:80点), C(普通:60点), D(やや不満:50点), E(不満40点)の評価を行う。 1実習への取組姿勢 2実習内容の理解度および成果など 3報告書の内容、出来映えなど。 2.学級担任による実習報告書の評価 以下の評価項目について総合して、S(非常に満足:100点), A(満足:90点), B(やや満足:80点), C(普通:60点), D(やや不満:50点), E(不満40点)の評価を行う。 1実習の目的、内容が理解できているか。 2記述が簡潔で、正しい日本語で記述されているか。 3図や表が、適切で見やすいか。 4実習内容など。 3.学級担任および系長による報告会の評価以下の評価項目について総合して、S(非常に満足:100点), A(満足:90点), B(やや満足:80点), C(普通:60点), D(やや不満:50点), E(不満40点)の評価を行う。 1実習の目的、内容がわかりやすく説明されているか。 2図や表が適切で見やすいか。 3話し方、質疑応答がわかりやすく、説得力があるか。総合評価=実習先担当者による評価:50%, 実習報告書の評価:25%, 報告会での評価:25%で、合計100点満点で採点し、50点以上を合格とする。総合評価=(実習先担当者による評価)x0.50+(実習報告書の評価)x0.25+(報告会での評価)x0.25 (講義を受ける前) 実習先の事前課題や指示に従って、準備を行う。 (講義を受けた後) インターンシップ報告会で発表する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	企業、公的研究所での実習 (インターンシップ)	企業や研究所などにおいて、その受け入れ機関の指導の下に、現場の実際の業務、技術を体験する。 実習の日数は5日以上、もしくは実習時間を30時間以上とする。 終了時には、受け入れ機関の証明を記入した実習修了書 (本校指定様式) を受領し、学校に提出する。	

	2週		※なお、学校へ提出する「実習報告書」及び「報告会」において、下記到達目標の内容を記載すること。 (到達目標) ・企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 ・企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を挙げることができる。 ・企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 ・企業には社会的責任があることを認識している。 ・企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 ・調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 ・企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 ・社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。 ・技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。 ・技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。 ・高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。
		3週	
		4週	
		5週	
		6週	
		7週	
		8週	
		4thQ	9週
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	レポート	口頭発表	実習先評価	合計	
総合評価割合	25	25	50	100	
知識の基本的な理解	10	10	10	30	
思考・推論・創造への適用力	5	5	10	20	
態度・嗜好性(人間力)	5	5	10	20	
総合的な学習経験と創造的思考力	5	5	10	20	
汎用的技能	0	0	10	10	